

能登 いまい農場だより 11月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。
新米の味、いかがでしたでしょうか？
色づきははじめた木の葉が舞い落ちる季節になりました。
これから北陸では、鉛色の空が覆うようになり、雷雨
や、強風の日が多くなっていきます。
皆様、お変わりありませんか？



■小ドライブ(早めの紅葉狩り)

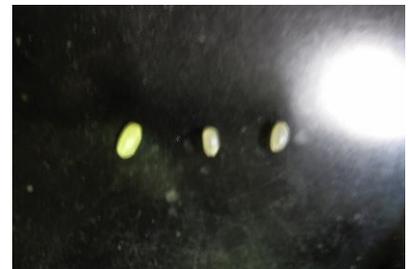


11月3日、天候も良く、籾摺り作業がもう少しとなり、気分転換を兼ね、ちょっとドライブに出かけました。四方の大パノラマが見渡せる山、石川県と富山県の県境の碁石ヶ峰でも登って、富山湾とその上に見える立山連峰でも見ようかと思ったのですが、まだ紅葉にはちょっと早く、気を取り直して、神子原・氷見経由で七尾方面に向かい、途中の小境海水浴場から、大敷網(定置網)と一部雲からのぞいた頂上付近に雪を頂いた立山連峰を写真に納めました。これからが日本海でとれる

ぶりなど、脂がのって旨くなる時期です。自宅への帰りに七尾の魚屋で、天然ぶりと、好物のカワハギの肝付きの刺身を買って、晩酌でいただきました。

■石川県の新品種「ひやくまん穀」

今年、当農場では、コシヒカリよりも10日ほど熟期の遅い晩生の品種を試験的に2品種作付けしました。石川県農業試験場が10年の歳月をかけて育成した「ひやくまん穀」と、もうひとつ品種は滋賀県の民間会社が育成した「大粒ダイヤ」という品種です。



〔写真〕左より大粒ダイヤ、コシヒカリ、ひやくまん穀

2品種とも、コシヒカリよりも粒がおおきく、冷めてもおいしいというのが売りなのですが、、、。少しならお分けできます。早めにご注文ください。

「大粒ダイヤ」の試食はまだなのですが、「ひやくまん穀」はやや粘りもあり、おいしいです。

平成30年の減反廃止を受けて、全国の米どころが、ここ2・3年に新品種をぞくぞくと出しています。青森県では「晴天の^{へきれき}霹靂」、岩手県では「金色の風」、新潟県では「新之助」、富山県では「^{ふふふ}富富富」、福井県では「いちほまれ」等々です。どの産地・品種が消費者に受け入れられるか、これからはばらけ激戦になりそうです。

■大阪梅田の阪神百貨店には20年前から店頭で、「能登のこしひかり」として販売していたのですが、今年中に出向いて店頭販売キャンペーンを行う予定で計画を立てています。